

千葉経大新聞

第49号
発行

千葉経済大学
千葉市稲毛区轟町
3-59-5 (〒263-0021)
TEL.043 (253) 9111(代)
FAX.043 (254) 6600
http://www.cku.ac.jp

博物館館園実習が 本学で初めて 開催されました

千葉経済大学地域経済博物館において、八月三十日(木)・三十一日(金)の二日間、学芸員課程履修者二十六名による博物館館園実習が、菅根教授・永井学芸員の指導のもと行われました。



本館が千葉県から博物館相当地施設に指定され、学内での館園実習が可能になって初となる今回の実習は、二グループに分かれて、古文書の整理・キャプション(解説パネル)の作成・資料の清掃等を行いました。古文書の整理は、本館が収蔵している江戸時代から明治時代の古文書を、劣化の少ない中性紙で作られた特製

製封筒に入れて、古文書の内容を解説し、作成年号や表題を封筒表面に記録し、保存していく作業です。先人の遺した貴重な生活記録を後世に伝える、いわば学芸員としての基本を習得するものです。

一方、キャプションと呼ばれる資料の解説パネルの作成は、ハレパネというボードの上に印刷した解説文を貼りつけ、カッティングする方法で行われます。この作業も、来館者の展示への理解を深めるために重要な仕事です。

また、本学にある千葉県指定有形文化財の「旧鉄道聯隊材料敵煉瓦建築」に保管されていたレールの枕木を清掃しました。

「旧鉄道聯隊材料敵煉瓦建築」は明治四十一年に建設されたもので、明治期の大規模な煉瓦建築は希少であり貴重な文化財を後世に伝えることも学芸員にとって重要な役割のひとつとなります。

三十一日の午後には、千葉県立中央博物館へ出かけ、同館の島立主任の解説のもと、収蔵庫等普段は見学できない博物館のバックヤードを見学させてもらいました。

今回の実習で習得した技術を元に、第一線で活躍する学芸員が一人でも多く羽ばたいていくことができると願う次第です。

演習の4年間 完全必修化

教務部長
小野 正芳

皆さんは自分の人生の目的を達成するために日々努力をされているただ中にいるかと思えます。

授業で専門知識を学んだり、資格を取得したり、サークルなどで友人たちと共同作業を行いコミュニケーション能力を高めたりと、目的を達成するための道具(手段)を手に入れる機会がたくさんあるでしょう。失敗が許される学生時代に多くのことにチャレンジしより多くの道具を手に入れて下さい。

しかし、うまくいかなかったり、失敗したりすることもあるでしょう。目標を達成することの困難さ、自分を成長させることの難しさを感じることもあるでしょう。

そんな皆さんをできる限りフォローしていくため、大学の四年間必修化を導入しました。

一年次前期には基礎演習Ⅰ、一年次後期には基礎演習Ⅱ、二年次前期では基礎演習Ⅲに所属してもらいます。基礎演習は大学での学び方を知ってもらうこと、基礎学力の確認をもらうこと、皆さんと個別面談を行い皆さんの状態を知ること、皆さん自身も自分を知り、今後のステップアップの道筋を考えるのに役立て下さい。

また、演習の所属人数は最大二十名ですから、担当教員が学生一人一人に個別に対応することが可能です。いろいろなことを相談し、悩みを解決して下さい。

二年後期からは専門知識を学ぶ専門演習に所属してもらいます。専門演習の第一の目的は専門知識を学ぶということですが、学ぶ方法を学んでもらうことも目的の一つです。学びのプロでもある教員は様々な学びの方法を知っています。

皆さんにあった学びの方法を伝授してくれるでしょう。

このように演習の四年間必修化により、皆さんにきめ細かいフォローをすることが可能になりました。ぜひこのシステムを使いこなして、自分の能力を高めるために役立てて下さい。

千葉県では三十二の私立大学で「千葉県私立大学学生支援研究協議会」を組織し、学生指導・学生支援を担当する教職員の研修会を年に二回開催しています。第一回は昭和六十二年に「千葉県私立大学学生部連絡協議会」としてスタートし、今年で二十五年となり、今年で第五十回記念となる研究協議会は、六月二十九日(金)に本学にて七十七名の参加のもと開催されました。

今回の協議会は、研究会のテーマ「学生支援の現状、問題点と今後のあり方を考える」として、講演では講師に日本学生支援機構学生生活部研修事業課長の岩崎憲一郎氏を迎え、「学生支援を取り巻く現状と研修事業について」JASSOが実施する学生支援研修会をとおしての演題により、学生相談・メンタルヘルス研修及び障害学生支援に関する研修会の紹介を受けました。更に、他大学等で実施している研修情報の紹介や新たな提案もあり、今後、

第五十回千葉県私立大学 学生支援研究協議会が本学で開催されました



学友会、及び課外活動関連、⑤障がいを持つ学生に対する支援策、⑥危機管理(災害時、学生生活面)対応)に分けたグループ分け希望とアンケートを実施し、各大学の事例を踏まえて問題点の抽出と対応策を発表する方式を取りました。

最後に運営については大学関係者の絶大なご協力をいただき、また、学生指導員、学友会のサポートを受けて本学での研究協議会が無事に開催されたことも併せて報告いたします。



- ### 第50回 千葉県私立大学学生支援研究協議会次第
- 協議会
 - 総会
 - 議長選出
 - 議題
 - 平成23年度事業報告及び決算報告並びに監査報告の件
 - 平成24年度役員改選の件
 - 平成24年度事業計画(案)及び予算(案)の件
 - その他
 - 研究会 テーマ:「学生支援の現状、問題点と今後のあり方を考える」
 - 講演

演題 「学生支援を取り巻く現状と研修事業について」
— JASSOが実施する学生支援研修会をとおして —

講師 独立行政法人 日本学生支援機構
学生生活部研修事業課 課長 岩崎 憲一郎

内容 1) 学生支援の現状等を踏まえたJASSOの研修事業(平成22年度学生支援取組状況調査結果から)
2) 平成24年度教職員のための学生支援研修会
① 学生相談・メンタルヘルス研修会
② 就職・キャリア支援研修会[基礎コース][専門コース]
③ 障害学生支援研修会[理解・実践プログラム][応用プログラム]
3) 他の大学等で実施している研修情報
4) 研修事業の可能性
 - ワークショップ(班別討議)
 - 学生生活支援に関する問題点とその対応について
 - 学生相談に関する問題点とその対応について
 - 学内マナー・ルール違反等に関する対応について
 - 学生自治・学友会、及び課外活動に関する問題点とその対応について
 - 障がいを持つ学生に対する支援策について
 - 危機管理(災害時、学生生活面)に関する対応について
 - 全体会議(発表)
 - 第50回記念講演

演題 「江戸遊びの文芸—黄表紙の世界—」

講師 学校法人佐野学園理事(神田外語大学名誉教授・本協議会顧問)池田弘一
 - 懇親会 第50回記念パーティ 会場 学生食堂(エステリア)



オープンキャンパス 実施報告

今年のオープンキャンパスが全八回すべて終わりました。本学の特徴についての説明、入試説明、模擬授業、学内見学といった例年通りのプログラムに加え、今年は新たに次のような取り組みを行いました。

一つめは、高校生のニーズにあわせた日程とイベントの追加です。夏休み期間（八月）に開催日を一日追加し、高校生がより参加しやすいようにいたしました。また、高校生の関心が高い部活動見学も充実させました。硬式野球部・陸上競技部・フットサル部・バドミントン部・剣道同好会の練習を見学できるようにし、大学構内や学生食堂では華道部・漫画ノベルズ研究部・模型部の作品展示、さらに一人暮らし快適研究会による活動報告や茶道部による茶会実演もおこなわれました。大学全体で部活動が活発におこなわれていることがオープンキャンパス参加者にも伝わったと見えて、みなさん大変興味をもっていらした。二つめは、千葉経済大学附属高校の生徒向けプログラムの実施です。六月二十三日、八月二十五日（二日）で実施され、附属校推薦入試などの入試説明や本学の資格取得（簿記検定、情報処理検定など）の支援体制の説明、さらには本学卒業生との懇談がおこなわれ、参加してくれた附属校生も興味関心を示してくれて、卒業生に質問をする場面も見られました。

三つめは、課題・面接説明会をオープンキャンパスの正規プログラムに組み入れたこと。課題・面接説明会では、A/O入試や推薦入試を検討している高校生のみなさんに、入学試験に関連する小論文の書き方のアドバイスや面接のポイントを説明しています。昨年度までは、オープンキャンパス終了後、希望する少数向けに実施しておりましたが、今年からはメインのプログラムの一つとしたことで参加

オープンキャンパス スタッフ 活動報告

私たちオープンキャンパススタッフは、今年も八回開催されたオープンキャンパスで参加者のみなさんに学生の目線から大学の良さを伝える活動をしてきました。今回は私たちが所属する「オープンキャンパス研究部」の活動を紹介します。

オープンキャンパス研究部は、一年生二人、二年生五人、三年生六人、四年生二人の計十五人の部員を抱えており、主にオープンキャンパスの運営や準備、研究といった活動をおこなっています。

オープンキャンパス当日は学生スタッフとして、最初に行われる全体説明会や、実際に大学の講義が受けられる体験模擬授業、入試に関する情報などが得られる課題・面接説明会などで、教職員の方々と協



力し、会場への案内や次のプログラムへの誘導をおこないます。

特に、大学の施設を学生スタッフが案内する学内見学ツアーは、私達が高校生と深く接点をもてるプログラムになります。そのため当日のみなさんが知りたいのか、「どうすればいいの？」と意識して、練習に取り組んできました。その結果、実際に参加者の笑顔や共感が得られたときは、大きな励みになりました。

今年の活動では、一年生はメモを取りながら学び、二年生は一年生に教えつつ自分達のレベルアップをはかってきました。三年生は四年生のフォロワーが出来るように学び、四年生は最上級生としての全体をまとめて運営をするなど、それぞれの学年としての意識を持って活動してきました。OB・OGとの結び付きも強く、今年も様々な場面で一緒に活動しました。

オープンキャンパス以外にも、大学祭や年一回の合宿、地域のイベントなど、学内外問わず様々なイベントに積極的に参加しています。その都度、学ぶことが多くあり、部員同士の絆を更に強くすることができました。

今年度のオープンキャンパスは終了しましたが、来年度に向けて学内見学ツアーの練習や、毎週のミーティングなど準備を始めています。

今年度の反省をいかして、より参加者に満足いただけるオープンキャンパスにするため、部員全員で努力していきます。



人数も大幅に増えました。メモを取りながら真剣に説明に聞き入っている人たちが多く見られたのが印象的でした。

このような取り組みを通じて、多くの高校生が本学に興味を持ち、入学してきてくれることを期待しています。

インターシップ 参加報告



経済学科 3年 武居 晃弘

八月二日から五日間、富士ゼロックス千葉株式会社でインターシップを行いました。富士ゼロックス千葉株式会社は、複写機・プリンターなど各種情報機器の販売およびシステム・サービスを行っている会社です。

私がインターシップに参加した目的は、学生では体験できない営業の仕事を実際に体験し理解を深めたいと思っただけです。今回のインターシップからは千葉県内の大学十一校から各一名の学生が参加し一緒に学びました。

実習の一日目は会社紹介があり、その後、挨拶・身だしなみ・名刺交換などビジネスマナーについて学びました。また実習生同士で「インターシップ参加目的」について話し合い、他校の学生と大きな変勉強になりました。

二日目はカスタマーエンジニアの方との同行で、会社を訪問して複写機・プリンターの保守・点検作業などを見学しました。

三日目は営業職の方との同行を行い、新規顧客への売り込みや、既存顧客のアフターフォローなどの営業活動を見学しました。四日目は二つのグループに分かれ、これからの現場同行について感想や意見を出し合い、実習の振り返りを行いました。五日目は今回学んだことをグループ毎にパワーポイントでまとめ、幹部の方々にプレゼンテーションを行いました。

富士ゼロックスは複合機の分野で業界トップの企業ですが、「営業を行うノウハウだけでは業界トップになれない」ということを学びました。それは営業の方も、カスタマーエンジニアの方も「常にお客様のことを考え、優先している」からこそであり、人脈を大切に、商品は売って終わりではなくきめ細かいアフターフォローも大切に行っていることを学びました。

営業職に求められるものは商品知識はもちろんのこと、お客様への細かい気配り、コミュニケーション能力、フック

第五十二回 日本社会史学会 大会が本学にて開催されました

准教授 佐藤 典子

平成二十四年六月三十日（土）、七月一日（日）の二日間、本学にて第五十二回日本社会史学会大会が、本学にて開催されました（世話人：本学准教授、佐藤典子）。

全国の日本社会史学会会員のうち、大学教授、大学院生、出版関係者など、七十名が参加し、盛況のうち一日目は、会長挨拶から始まり、「ピエール・ブルデュエのハビトゥス論」（村井重樹）、「アルフレッド・シュッツの時間論」（鳥越信吾）など、多数の一般研究報告

が行われました。また、総会の後、新幹線乗車、富永健一として表彰されました。一日を締めくくると懇親会では、本学の小滝敏之学長が、開会に際して歓迎のあいさつを行うとともに、内外の社会学の動向を踏まえ、歴史的にも振り返りながら、諸学問との関連から社会学について論じました。

二日目は、「ポピュラー文化と社会学の思惟」と題したシンポジウムが行われ、「今日、「クールジャパン」といふことが示すよう



が深めることができました。

次に集団面接では、普段、友人同士で話していることが面接官の前

私は九月に南房総市で行われたガチンコ就活塾に参加し、一泊二日と、とても短い時間でしたが非常に密度の濃い時間を過ごすことができました。二日間は、グループワーク、筆記試験対策、面接を重点的に行いました。私が特に印象に残っているのはグループディスカッションと集団面接です。

まず、グループディスカッションでは、一人ひとりが役割を果たし、グループで話し合うことがいかに難しいかという点を改めて認識しました。また、声の大きさを抑え、他の人に聞こえないこと、発想力のない議論を行っていたことを痛感させられました。更に、ただ発言をして目立ってはいけません。発言を促さない人に発言を促すこと、話の内容をまとめることなども苦労しました。

次に集団面接では、普段、友人同士で話していることが面接官の前



この体験を今後の就職活動に活かして行きたいと思えます。また今回の実習で丁寧にご指導いただいた富士ゼロックス千葉株式会社の方々には深く感謝しています。

に、日本のポピュラー文化は世界で広く受け入れられており、メディアの発達によって文化の影響力をますます大きくしている。私たちがこの文化の本質を考察する立として社会学の古典の中にあることを目的に「文化産業論再考」をテーマとして、大衆欺瞞の「ミミシス」(出口剛司)など三つの報告と討論、リプライ、フロアからの質疑応答が行われ、熱気あふれる議論の場となりました。

また、事前準備、会場設営、当日の運営、受付業務にあたり、他大学から澤田唯人氏、本学の学生の小曾根一紗さん、清水遥さん、今野更紗さん、坂田瑞希さん、藤岡美帆さんの手伝いがあり、参加者から好評を得ました。

さらに、本学で、現在、社会学、社会心理学の講義を履修している学生に参加を呼びかけたところ、一年生を中心に十名が大会に参加し、専門的な発表を聞き、日頃の学習を深めることができました。

このガチンコ就活塾で学んだことをこれからの就職活動に活かしていきたいと思えます。また、就職活動をしていく中で多くの挫折を経験している人も多くいます。しかし、試験対策を取られるよう頑張ります。最後に一・二年生の皆さんに向けたメッセージです。就職活動は、まだまだ先だと思いがちですが、早く準備を始めておけば良かったという後悔は後から自分自身を磨き、何をやらなければならないかを考えることが大事であると思います。

少しでも面接やグループディスカッションに興味がある人は、是非ガチンコ就活塾に参加してください。ガチンコ就活塾が終わった後のあなたは一回りも二回りも大きく変わっているに違いないと思います。

「ガチンコ就活塾」に参加して

経済学科 3年 小田慎一朗

にするとうまくいかなかったら、もう一度チャレンジしたいという気持ちで、面接官に話している時、面接官の態度を見られていることがわかってきました。

このガチンコ就活塾で学んだことをこれからの就職活動に活かしていきたいと思えます。また、就職活動をしていく中で多くの挫折を経験している人も多くいます。しかし、試験対策を取られるよう頑張ります。最後に一・二年生の皆さんに向けたメッセージです。就職活動は、まだまだ先だと思いがちですが、早く準備を始めておけば良かったという後悔は後から自分自身を磨き、何をやらなければならないかを考えることが大事であると思います。

少しでも面接やグループディスカッションに興味がある人は、是非ガチンコ就活塾に参加してください。ガチンコ就活塾が終わった後のあなたは一回りも二回りも大きく変わっているに違いないと思います。

千葉経済大学学生懸賞論文募集要項

応募資格：本学経済学部生

論文テーマ：社会科学・人文科学・自然科学を問わず、自由に論題を設定し、論述して下さい。

応募条件

1. 論文は「日本語」または「英語」で書かれたものとします。
2. 応募論文は未発表のものに限ります（卒業論文の提出も可）。
3. 論文の応募には演習（基礎演習、演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、特別演習を含む）指導教員の推薦を必要とします。
4. ワード（WORD、EXCEL）等を使用し、A4判横書きとします。
 - ・和文 横書き A4用紙（1行40字×37行）10枚～15枚程度
 - ・英文 A4用紙（1行65字前後×25行）15枚から20枚程度
5. 提出された論文は返却しません。
 - ・原稿 横書き A4用紙（1行65字前後×25行）15枚から20枚程度
 - ・図表、グラフ、注、参考文献等は別扱いとします。本文には含めません。原稿一部およびフロッピーをあわせて提出して下さい。

審査：投稿された論文は、地域総合研究所によって委嘱された審査委員会により厳正に審査を行い、そのうち、優秀な作品については最優秀賞、優秀賞、佳作の各賞並びに副賞として図書券を授与し、その概要をHP上、および大学新聞に掲載致します。著作権：学生懸賞論文に提出された論文の著作権のうち、「複製権」、「公衆送信権」および「送信可能化権」の行使を地域総合研究所に委託するものとします。

募集要項の発表・掲示・配布・ダウンロード開始：2012年7月上旬

応募論文の提出締切日：2012年12月21日（金）

論文提出先：学務課窓口へ提出；提出時に発行される「懸賞論文受領書」を受け取ること。

審査結果の発表：2013年3月上旬に、学内掲示、本学HP、および大学新聞紙上で発表すると共に、応募者全員に結果と審査講評を送付します。

表彰式：受賞者の表彰は当該学生の卒業年における学位授与式席上で行います。その他、論文執筆に当たっては、「執筆要領」を参照してください。

審査のポイント

- 1 形式
 - ① 論文題目・論文要旨について；論文全体の内容を適切に表しているか。
 - ② 目次・本文・結論について；論理的に適切な構成か。
 - ③ 文献・資料について；必要なものを適切に用いているか。
 - ④ 引用にあたってはその出典が明らかにされているか。
- 2 内容
 - ⑤ 論文の当該分野における貢献、オリジナリティとは何か。
 - ⑥ 典拠資料の読み方や観察・調査の方法が適切なものか。これらを十分に駆使して論理展開を行い、結論に至っているか。
- 3 その他
 - ⑦ 原稿は、十分に推敲し、誤字・脱字の無い、完全な文章になっているか。

執筆要領

1. 論文の形式について
 - 以下の順で揃えて、綴じないで提出して下さい。
 - ① 表紙 論文題目、学科学年、学籍番号、氏名を明記して下さい（共同執筆の場合は執筆者全員を明記して下さい）。
 - ② 論文要旨 内容を要約したもの。A4用紙（40字×37行）1枚
 - ③ 目次 本文に章付けし、章立てに従って作成。
 - ④ 本文 A4用紙（Word 40字×37行）10～15枚程度、章立てして下さい。
2. 図表、注、参考文献は別扱いにします。本文には含めません。
3. 引用、参考文献については、出典(著者名、タイトル、発行所、発行年月日)を明記して下さい。ホームページ上の資料を利用した場合は、URLとアクセスした日付を明記し、かつプリントアウトしたものを資料として添付して下さい。

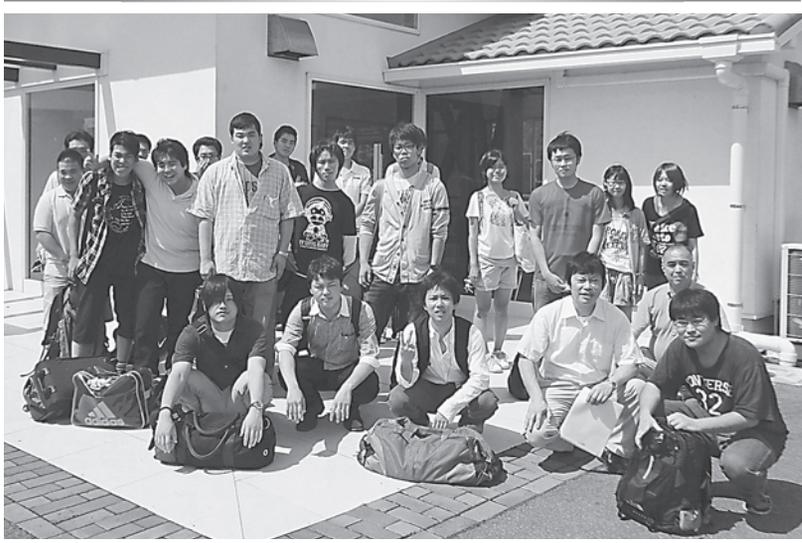
歴史班

経済学科 2年 笹川 隆弥

二〇一二年九月四、五日で学芸員課程の調査実習に行きました。今回の実習で私は、歴史班の所属として参加しました。歴史班は、勝浦市役所内で勝浦市新官の植村家の古文書の袋詰め・表題とり・目録作成を行いました。具体的には、古文書の内容を読み込み、資料を封筒に入れ、整理し、封筒の表に内容を記載する作業でした。

こんなにも多くの古文書に触

学芸員課程調査実習



考古班

経営学科 3年 龜谷 翔太

二〇一二年九月四、五日の二日間を利用して学芸員課程の調査実習に御宿へ行って参りました。私は、考古班の所属となり、野中和夫先生のご指導のもと拓本を取る作業について教わりました。

勝浦市の川津神社、津慶寺という場所に考古班十名が分かれて作業しました。津慶寺のある川津集落は、江戸時代初期、紀州の移住漁民が集まり住んでいたそうです。私は、拓本を作成する作業は簡単なことだと考えておりました

植村家では良好な状態ではないにせよ、世代を超えて保管して来たことがわかりました。これらの史料を後の世の中に残すことも学芸員の仕事であり、そのための授業も大学にはあるのだと思ひ返しました。

作業は全て終わらないうちに二日間は終わってしまいい残念でしたが、今まで見たことの無い史料に触れることが出来たことは、学芸員の実技習得のために良い二日間であったと感じています。



が、採る作業まで行きつくこととがとて大変でした。石碑に刻まれた文字を明確に現すため、たわしで磨いていくのですが、海が近いこともあり苔や汚れが石碑に染みついており、なかなか落とすことができません。

ここで大半の時間を使ってしまったせいか、初日は拓本の作業までたどりつくことができませんでした。私はこびり付いている苔や汚れから時代の重みを痛感しました。

二日目も続きの採拓作業から入りしました。拓本を採るための画仙紙という用紙を採りたい部分に紙を当て霧吹きで濡らします。その後、タオル



で押さえないながら石碑のデコボコ面を紙になじませます。そこからタンポという道具で、墨を付けて拓本を採るため、用紙と石碑を軽く叩き、乾燥させた文字を写し取り、乾かして紙をはがします。紙は、乾くと墨が石碑に付着してしましますし、濡れすぎていると墨が滲み破れてしまします。そのため力加減と手際がとて重要でした。同班のメンバーと先輩方の手をお借りして無事に拓本を採り終えることができました。

この二日間、野外での活動は暑さが厳しく辛い面もありましたが、伝統のあるお寺で実習ができたことは、私たちにとって貴重な体験であり、光栄なことでした。最後に、お茶の差し入れをしてくださったお寺の住職様、地元関係者の方々、教職員の皆様、この場を借りて御礼申し上げます。

松戸献灯祭りのボランティア活動を通して

演習Ⅱ 中嶋ゼミ

私たちキャリアデザイン演習(中嶋ゼミ)の三年生メンバーは、八月十日に松戸宿坂川献灯祭りのボランティア体験をしました。この献灯祭りは、花火大会や神輿を担ぐ祭りのような賑やかなものとは異なり、松戸宿で招いた先人たちの苦勞に対して敬意をこめて灯籠を流す、静けさを纏った祭りです。



そんな伝統ある祭りの中で私たちがゼミ生が携わった作業は、松龍寺境内の献灯あんどんや灯籠の作成・販売だけではありません。灯籠に明かりを入れる作業、さらには景観色彩と呼ばれるゆかたコートテストの投票管理に至るまで幅広く活動をさせていただきました。

献灯あんどんの作成では、竹で作られたあんどんの中に紙を敷き、砂を入れ、LEDライトの人工ろうそくをその中に設置するという単純な作業でしたが、数が百個を超えたため意外と手間がかかりました。また、松戸の先人たちの敬意をこめて流す灯籠は、東日本大震災の被災地への祈りと願いがこめられたもので、支援と祈りを送るうと



する姿に感動を覚えました。とくに、夕刻になり日が落ちた頃に、竹あんどんにひとつずつ灯りを入れ、全てが灯った時の光景はとて幻想的でした。境内にやってきた祭りの参加者たちから「きれいですね!」「これは全て手作りですか?」と話しかけられるたびに「人の役に立つこと」や「人に喜ばれること」に対する幸せな感情が一段とこみ上げてきました。

景観色彩ではゆかたコートテストの運営を裏方としてサポートする役割が与えられました。献灯祭りに参加している方たち一人ずつに投票用紙を手渡しして、できるだけ多くの方に投票してもらおうというものでした。一見単純な作業ですが、実際は参加者がとても多く、無くなった票を補充しながらの配布・回収作業は大変でした。そして、さらに大きな声かけをしたり、ゼミのメンバー同士で役割分担を

「教育実習を終えて」

経済学科 4年 石橋 愛

六月四日から六月十五日の二週間、私は母校の高校へ教育実習へ行ってきました。

二週間という短い期間は、日々自分への課題・目標が見つかり、それに向かって学習し、実行していくという流れであつたという間に終わりを迎えてしまいました。

初日の授業では、四十人前後の生徒の前に立つ、教壇に上がるといふ経験が無いため一気に緊張が高まってしまったのと同時に不甲斐ない気持ちになり、授業を行うということの難しさをあらためて感じさせられました。このまま実習を終える形になってしまつては後悔しか残らないと思ひ、その日から毎日一日一日を振り返り「原因」を見つけ、その解決方法を考え計画を練り授業で実行してみ、そして最後に必ず振り返り、また新たな課題を見つけ挑戦するというサイクルで日々少しずつでも改善部分が



見られる様にと取り組んでいきました。そのほかにも、たくさんの生徒とコミュニケーションを図るためホームルーム、清掃の時間、放課後の短い時間や廊下ですれ違う時など積極的に話しかけ、一日でも早く多くの生徒の名前を覚え、呼びかけることで生徒との距離が一気に縮められたと感じました。

実習の中盤にさしかかったあたりから私が話している間、しっかりと聞く姿勢と共に笑顔がうかがえるようになったときは、とてうれしく、生徒に「実習生に会えてよかった」と少しでも思えてもらえたか、そのような存在になれたかなど、少し自信が持てるようになりなりました。生徒たちにとって私の言葉が今後の彼らの高校生活に良い影響を与えることができれば幸いです。

介護等体験を終えて

経済学科 3年 平野 礼二郎



私は、千葉市障害者福祉センターに、七月三日から七日まで介護等体験に行ってきました。

この施設は主に「脳卒中」で倒れ、身体に麻痺が残っていたり、失語症になってしまった人たちが利用しています。私は高校のときに、ボランティアとして特別養護老人ホームに行った経験があったので、脳卒中による麻痺・失語症の障害は、私自身がその障害を持たない限り、体験することができません。

実際に障害者の方とかわつたとき、その人が何に困っているのか、何を伝えようとしているのかということがわからず、自分の無力さを感じました。

しかし、どんな障害を持っている方もとても元気で明るく、私がしどろもどろしていることなど気にせず話しかけてきてくれました。障害者の方を傷つけないように話しかけると思ひ、会話するのになんか怖さを感じてしまつたが、私の不安は取れ、会話するのが楽しくなってきました。

そして、障害者の方たちが私たちとなら変わらない一人の人間だということを感じることができました。また、「障害を持っていても、何が完全に出来なくなるとはならない」ということを学びました。

作業療法士の仕事の様子を見て感じたことなのですが、「障害を負ってしまったから〇〇を諦めるのではなく、障害を負った身体でも〇〇をするにはどう工夫したら良いだろうか」ということが見てとれました。「できるよ」の場にも生かせることができるとは、と考えるようになった。

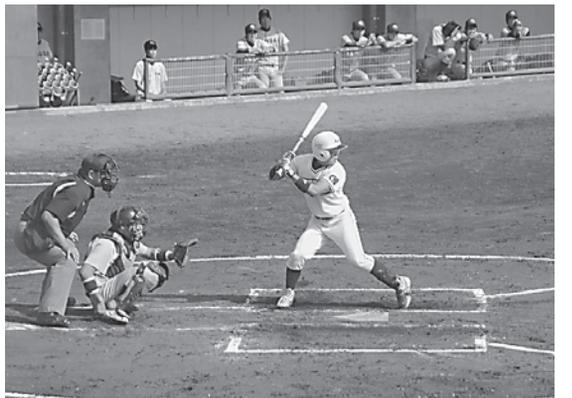
部活動 活動報告

バドミントン部

こんにちは。バドミントン部です。
バドミントン部の部員数は、男子十八名、女子六名です。毎週水曜日と金曜日の週二回、大学の体育館で活動しています。
大会には春、夏の年二回参加してはいますが、大学に入学してからバドミントンを始めた部員も多いため、団体戦においては結果を残せていないというのが現状です。
しかしながら、部長、副部長を中心に、みんなで日々練習に取り組んでいます。これまでは、基礎練習はあまりせずに試合形式のゲーム練習を主にやってきましたが、それだけでは試合に勝てないと考え、部員の意見も尊重しながら、地味で辛い基礎練習も積極的に取り入れるようにしています。
その一方で、レクレーション大会や食事会などのイベントを重視しているのも、今年のバドミントン部の特徴です。こうしたイベントは、一見遊びに見えますが、部員同士の結束を高めるために非常に効果的です。
九月には千葉県館山市で三日間の合宿を行いました。今年の合宿のメインイベントは、ダブルスの総当たりによるレギュラー決定戦でした。

本学硬式野球部が I部昇格!!

九月八日に開幕した平成二十四年度秋季リーグ戦（II部）において、本学硬式野球部が10勝4敗勝ち点5で優勝しました!!
I部昇格をかけた、千葉工業大学との入替戦は、二連勝でI部昇格を決めました。
ご声援ありがとうございました!



学年、実績は関係なしの試合であったために、下級生は先輩との力の差を感じ、上級生はレギュラーを賭けた緊張感のある試合になりました。
また、十一月の大学祭で販売する新しいメニューを、現在部員みんなで考えているところです。美味しいものを作って、みなさんに喜んでいただきたいと思っています。
真剣に取り組むからこそ面白いことがたくさんあると私は考えているので、今後も部員全員で真面目に楽しく活動していきたいと思っております。



卓球同好会

こんにちは。卓球同好会です。私たち卓球同好会は、毎週水曜日の十三時〜十六時に体育館で活動しています。部員は二年生が十六名、一年生が四名の計二十名です。そのうち卓球経験者は数名です。部員のほとんどが大学に入ってから本格的に卓球を始めました。同好会ですので、練習内容は各自に任せていますが、基本練習や試合が中心です。試合はシングルだけでなくダブルスを行うときもありません。そして、定期的なリーグ戦を行っています。最近ではリーグ戦以外にも、積極的に試合を申込む光景を目にするようになりました。



今年度になり、新たな部員が続々と入り、活気あふれる同好会となりました。しかし、卓球台は五台しかないのので、全員が一斉に台につき合せて台を使用することを心がけています。
今年度から新たな活動内容として、オープン大会に出場しました。五月二十日には我孫子オープンチームカップ卓球大会に団体戦で出場しました。そこで私たちは念願の初勝利を手に入れることができた。結果は一勝二敗で予選リーグ敗退でしたが、これからの活動への良いスタート切れたと思います。団体戦以外にもシングルスやダブルスの大会もあるので、積極的に出場していきたいです。
経験者のみならず初心者も、一人ひとりが目標を持ち活動しています。これからも結果を残せるよう精進していきますので、卓球同好会をよろしくお願ひします。

今年度から新たな活動内容として、オープン大会に出場しました。五月二十日には我孫子オープンチームカップ卓球大会に団体戦で出場しました。



写真部

こんにちは。写真部です。私達は、二年前の四月に創部したクラブで、三年生十七人、二年生四人、一年生一人の、計二十二人の学生が在籍しています。
写真部では、部員一人ひとりの価値観を尊重し、誰に強制されること無く自主的に写真を撮ることが活動理念です。一人ずつ感性が違うのは当たり前ですから、撮りたい被写体は一人ずつ違うはず。 「みんな」と一緒に似たような写真ではなく、「個性」を重視した写真を撮ることを

目標としています。そこで、写真部では夏休み明けに行なう撮影会を行いました。同じ場所に行なったはずなのに、それぞれ違う視点からファインダーを覗き、フィルムに収めていたのが印象的でした。
ある部員は友人を撮り、また、ある部員は寄せては引いていく白い波頭や、八月の空を撮りました。
私たちは日々、多くのものを目にしているはずなのに、カメラという機械で撮影するという行為がどれほど少ないことでしょうか。一人ひとりが違う視点で、



目標としていきます。そこで、写真部では夏休み明けに行なう撮影会を行いました。同じ場所に行なったはずなのに、それぞれ違う視点からファインダーを覗き、フィルムに収めていたのが印象的でした。
ある部員は友人を撮り、また、ある部員は寄せては引いていく白い波頭や、八月の空を撮りました。
私たちは日々、多くのものを目にしているはずなのに、カメラという機械で撮影するという行為がどれほど少ないことでしょうか。一人ひとりが違う視点で、

活動方針は、「社会で生きていくための知恵と知識を共有し、一人暮らしのQOLを向上させる」ことです。メンバーたちは、安い食材でいかにおいしく栄養ある食事を作るか、大学周辺にある「お得な」店はどこかなど、大学近辺でリーズナブルに暮らすための情報交換などをし、そこで集まった情報を外に向けて発信していくことにしています。
先日はオープンキャンパスに参加させていただき、高校生たちに千葉経済大学の周辺の暮らしやすさをアピールする「キャンパスライフ快適マップ」を配布しました。
現在、活動はミーティング



一人暮らし快適研究会について

顧問 准教授 小池 順子
ここ数年、本学の学生の中心に、遠くから親元を離れた大学に通う人が増えてきました。慣れない土地で初めての一人暮らしをして、生活の中で小さなこと大きなことに困っている人もいるかもしれません。「一人暮らし快適研究会」は、そのような学生たちの力を結集させようと、学生部が主体になって昨年つくられました。
活動方針は、「社会で生きていくための知恵と知識を共有し、一人暮らしのQOLを向上させる」ことです。メンバーたちは、安い食材でいかにおいしく栄養ある食事を作るか、大学周辺にある「お得な」店はどこかなど、大学近辺でリーズナブルに暮らすための情報交換などをし、そこで集まった情報を外に向けて発信していくことにしています。
先日はオープンキャンパスに参加させていただき、高校生たちに千葉経済大学の周辺の暮らしやすさをアピールする「キャンパスライフ快適マップ」を配布しました。
現在、活動はミーティング

同じ世界に生きているのにも関わらず、しかもその瞬間は二度と戻りません。
カメラを使うことによってのみ、その一瞬の感動や、楽しかった時間が、美しい風景を切り取ることが出来ます。
そして、何気なく撮った一枚の写真こそが、いつか来る未来に、とても大切な思い出の一枚となるのだと思います。
写真部員は、いつか見返した時に笑顔になれるような写真を撮り、日々撮影をしています。
最後に、今年の

写真部では部員の撮影した写真を例年通り展示致します。大学祭にお越しの皆様、是非ご覧になってください。

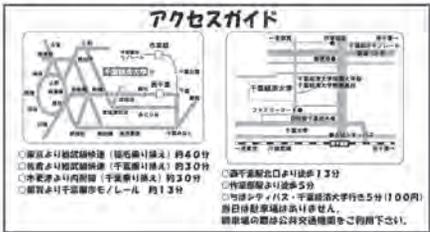
第25回千葉経済大学祭

テーマ **飛翔**

11月10日(土) 11日(日)
10:00~16:00

- | | |
|---------------|---------------|
| 10日(土) | 11日(日) |
| 爆笑モノマネ芸人ライブ | 人気女性声優トークショー |
| ○ 古賀シュウ | ○ ゆかな |
| ○ 梅小鉢 | ○ 新井里美 |
| ○ ヒカリゴケ (MC) | |

*この他にも豪華景品が当たる宝くじなど、様々な企画を用意してお待ちしています!ぜひご来場ください!



千葉経済大学祭実行委員会

〒263-0027 千葉市稲毛区稲毛3-5-9 TEL 043(2)5313801

図書館からのお知らせ

雑誌バックナンバー室の整理 図書館イベント

今年の春休みに行った配架資料の配置替えに続けて、夏休み期間中に雑誌バックナンバーの整理を行いました。従来は、発行年月別に二ヶ所に配架していましたが(中二階に一九九三年～二〇〇六年まで、一階閉架書庫に二〇〇七年～二〇一一年まで、和洋雑誌混在)今回、和洋雑誌の種類別に配架場所を分けました。和雑誌バックナンバーは中二階に集合し、洋雑誌は一階の閉架書庫に移動しました。和雑誌バックナンバーは一九九三年から二〇一一年まですべて一ヶ所で閲覧することができ、場所も自由に出入りできる中二階の電動書庫です。一階の閉架書庫はこれまで和洋雑誌が混在していたので見つけるのに手間がかかりましたが、種類に統一したことで以前に比べ半分の時間で探し出すことができ、利用者サービスの向上に繋がっています。これからも利用者が使い

やすい、資料を探しやすい図書館を目指して再編を図っていきます。

後期に図書館が行うイベントの秋の図書館講演会に、日本最古の学校である史跡足利学校の講座講師、須永美知夫先生をお招きして「足利学校と論語」について講演を行います。須永先生は八十二歳の高齢と栃木県在住にも関わらず遠路はるばる千葉経済大学まで足を運んで下さいました。また、二年目

大学では、定期的な巡回、施設点検を実施するとともに学生アンケート等を参考に順次施設の改修と設備のリニューアルを行っています。以下、夏季休業中に実施した施設改修についてご報告いたします。

学内施設改修について

庶務課報告

も設置しました。洗面台等もスタイリッシュなものに取り替えたほか照明もセンサー式ダウンライトを取り付け、床面の張替えを行いました。また、明り気雰囲気となり、とても明るい雰囲気となりました。これにより大幅な節水も期待できます。

○一号館トイレ改修

すでに改修を終えた二号館トイレに続き、大学一号館一階から六階までの全てのトイレを改修しました。全てのトイレに自動洗浄つきの便器を設置したほか手洗い等もセンサー式としハンドドライヤー

○二号館空調設備改修

二号館にある三つの大規模講義室は旧式な空調による集中管理となっていたため各室内でのON・OFFや室温調



1階閉架書庫 洋雑誌バックナンバー

千葉経済大学総合図書館講演会

講師：須永美知夫先生

演題『足利学校と論語』

日時 平成24年10月27日(土)
午後1時～午後2時30分

会場 大学1号館208教室

参加費 無料

主催 千葉経済大学総合図書館

講演者プロフィール
史跡足利学校講座講師
足利学校論語研究委員会 顧問 須永美知夫氏

【専門分野】 漢文学

【主要業績】
◎『漢文ノート』
『論語』の「論語名句50・唐詩名句10」
『論語』『心学』1998
『足利学校をさぐり論』(以上足利学校)
◎『あしがら論語句解』(以上足利学校)
『論語のこゝろ』(以上足利学校)

ACCESS MAP

を迎える「学生ブックツアー」は購入冊数を三倍に増やしたことで参加した選書委員は書店内を活発に探す光景が見られました。

選書した資料のポップを作成して館内「学生ブックツアー」コーナーに配架、ポップの出来栄も素晴らしい様々な色を使ってイラストや絵が描かれそれを見るだけで楽しくなります。訪れた学生も興味をもって本を手にとって読む姿が頻りに見られ、読書意欲の高まりを感じます。学生ブックツアーの影響もあって今年度は、昨年比でも増え、図書館利用学生数も増えているように見えます。引き続き、総合図書館として



秋の図書館講演会

千葉経済大学 オープンアカデミー

「オープンアカデミー」は単なる教養的な講座にとどまることなく、現代の問題をダイレクトにそしてラディカルな視点で解決していくことを目指しています。今日の先端的な知を代表する講師陣によって、丁寧かつ分かり易い講義が展開されます。現代の問題を的確に理解、分析することを求める全ての市民の皆様、ビジネス、立法、行政に携わる皆様すべてに開かれているオープンアカデミーです。



アカデミー政経塾

市場もそして政府も失敗する中で、資本主義経済のシステムそれ自体が深い閉塞感に陥っています。本年度はこうした現状を打破するために既存の政治経済システムそのもののあり方を問い直し、新たな制度調整の道を探るべく、大胆な制度設計の議論の展開を行います。(全5回：9月～10月毎週土曜日午後開催となります。定員30名程度)

日程	テーマ	講師
平成24年9月29日(土) 15:00～16:30	投資自由主義と地域通貨	西部 忠 北海道大学大学院経済学研究科教授
平成24年10月6日(土) 15:00～16:30	国際比較で考える日本型社会保障の戦略	栗沢 尚志 教授
平成24年10月13日(土) 15:00～16:30	公共選択理論と代議制民主主義のパラドクス	高橋 孝次 教授
平成24年10月20日(土) 15:00～16:30	住民による福祉・医療のまちづくり—行政と市民の協働—	大本 圭野 生命地域研究所代表 東洋学園大学非常勤講師
平成24年10月27日(土) 15:00～16:30	ローカル・ガバナンスと住民自治	小滝 敏之 学長

アカデミー演習

同一担当講師による複数回の講座と、他の講座よりも質問・討論時間を多くとることにより、担当講師との距離を縮め、特定の分野についての深い理解と、単なる既存の知識の反復・吸収にとどまることのない新たな知識の創造を行います。本学大学院には政策研究科が設置されており、本演習は大学院の授業を体験できる場でもあります。また、政策研究科への入学を考えていらっしゃる皆様への受験・進学相談にも応じます。(全4回：11月～12月毎週土曜日午後開催となります。定員30名程度)

日程	テーマ	講師
平成24年11月10日(土) 15:00～16:30	『企業と社会との関わり方』について考える	奥貫 泰正 教授
平成24年11月17日(土) 15:00～16:30	『顧客価値創造のあり方』について考える	
平成24年11月24日(土) 15:00～16:30	日韓企業の経営戦略の比較	周 炫宗 准教授
平成24年12月1日(土) 15:00～16:30	イノベーション戦略の構築—価値創造プロセスの活性化	

アカデミー特別講演会

特別講演会では、今日的な問題に対する鋭い論客を学内外から招聘し、アカデミー参加者の問題解決をサポートします。今年度はクールジャパンと呼ばれる日本のサブカルチャーを取り上げ、日本の経済復活に果たすコンテンツ産業としてのその役割と国家戦略についてお話しいただきます。(12月15日(土)14時～16時開催 定員100名程度 参加費 無料)

日程	テーマ	講師
平成24年12月15日(土) 14時～16時	国家戦略としてのクールジャパン	岸本 道弘 経済産業省 商務情報政策局 生活文化創造産業課長(クリエイティブ産業課) ファッション政策室長 クールジャパン海外戦略室長

お問合せ先：千葉経済大学学務課 TEL 043-253-9111

平成23年度 千葉経済学園財務情報

平成23年度における財務状況を次のとおりご報告いたします。

1 資金収支計算書 (平成23年4月1日～平成24年3月31日) (単位：千円)

収入の部		支出の部	
科目	決算	科目	決算
学生生徒等納付金収入	2,506,224	人件費支出	2,456,086
手数料収入	55,617	教育研究経費支出	554,127
寄付金収入	6,238	管理経費支出	147,681
補助金収入	749,033	借入金等利息支出	24,985
資産運用収入	46,530	借入金等返済支出	100,890
事業収入	35,008	施設関係支出	33,673
雑収入	120,618	設備関係支出	98,411
前受金収入	634,961	資産運用支出	710,660
その他の収入	671,764	その他の支出	215,562
資金収入調整勘定	△ 754,827	資金支出調整勘定	△ 113,702
前年度繰越支払資金	1,674,923	次年度繰越支払資金	1,517,716
収入の部合計	5,746,089	支出の部合計	5,746,089

2 消費収支計算書 (平成23年4月1日～平成24年3月31日) (単位：千円)

消費収入の部		消費支出の部	
科目	決算	科目	決算
学生生徒等納付金	2,506,224	人件費	2,428,664
手数料	55,617	教育研究経費	879,964
寄付金	10,038	管理経費	159,405
補助金	749,033	借入金等利息	24,985
資産運用収入	43,503	資産処分差額	31,745
事業収入	35,008	徴収不能引当金繰入額	4,757
雑収入	141,286	徴収不能額	1,583
		消費支出の部合計	3,531,103
帰属収入合計	3,540,708	当年度消費支出超過額	97,898
基本金組入額合計	△ 107,504	前年度繰越消費支出超過額	2,632,791
消費収入の部合計	3,433,205	翌年度繰越消費支出超過額	2,730,689

3 貸借対照表 (平成24年3月31日現在) (単位：千円)

資産の部		負債の部、基本金の部及び消費収支差額の部	
科目	決算	科目	決算
固定資産	15,861,084	負債の部	2,777,433
有形固定資産	13,978,235	固定負債	1,834,573
その他の固定資産	1,882,849	流動負債	942,860
流動資産	1,628,488	基本金の部	17,442,828
		消費収支差額の部	△ 2,730,689
合計	17,489,573	合計	17,489,573

☆平成23年度財務情報の詳細は本学園ホームページに掲載していますのでご参照ください。